

1 中津市のすがた

1 中津市のすがた

1-1 中津市の現況

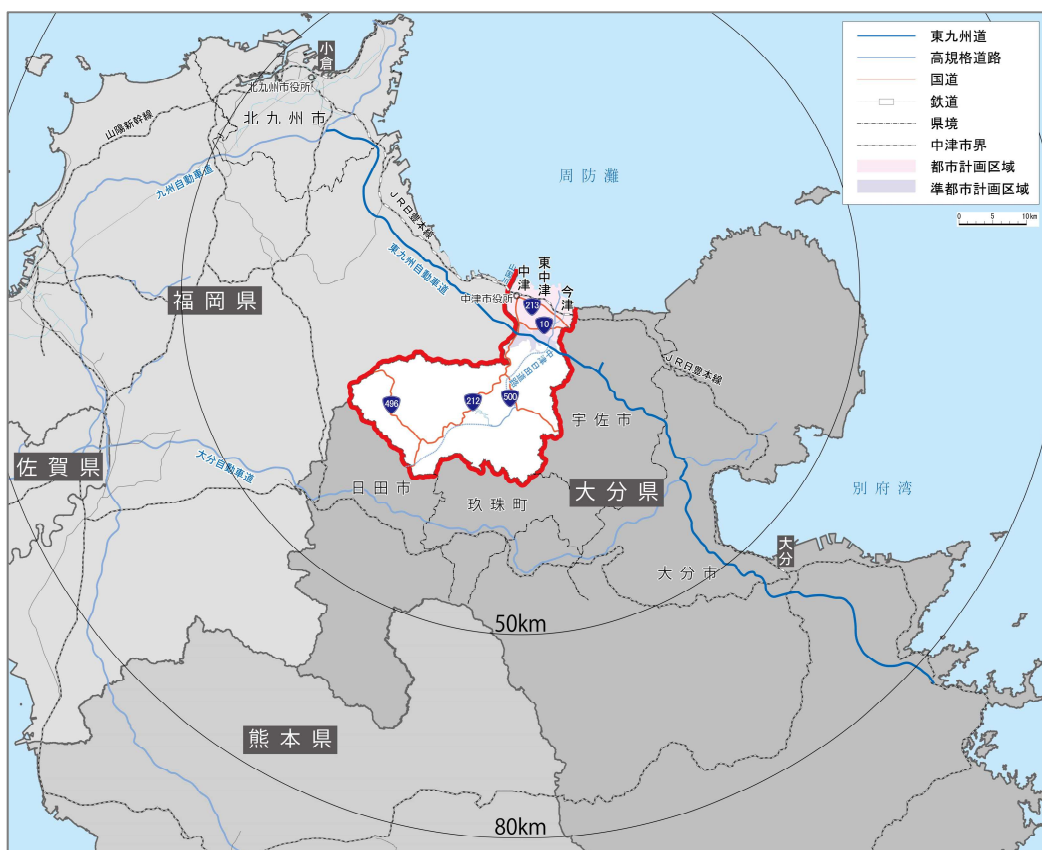
(1) 位置・地勢

中津市は、大分県の西北端に位置し、東は宇佐市、南西は玖珠郡・日田市、北西は福岡県に接し、北東は周防灘に面している。面積は491.53km²で、北部は狭く南部は西方に大きく張り出した形状を示し西側に英彦山がそびえ、地域を貫流する山国川の分水嶺となっている。

また、市域の約80%は耶馬日田英彦山国定公園を有する山林が占め、山国川下流の平野部にはまとまった農地と、中核をなす市街地が形成されている。

県北の中核都市として位置づけられており、県都の大分市まで82km、北九州市へは52kmの距離に位置することから、古くから交通の要衝地として繁栄してきたまちである。主要な公共交通機関として、JR日豊本線が市内を東西に走り、中津駅、東中津駅、今津駅を有する。道路は、中津日田道路と東九州自動車道の高規格幹線道路に加え、国道10号・212号・213号等の幹線道路により本市の道路網の骨格を形成している。

都市計画においては、中津地域に都市計画区域^{*1}(5,629ha)を、三光地域の一部に準都市計画区域^{*2}(1,459ha)が指定されており、用途地域^{*3}や都市計画施設^{*4}である道路や公園等を都市計画決定している。



▲中津市の広域的位置づけ

*1: 都市計画上、一体の都市として区分する際の区域。

*2: 無秩序な開発等で住環境を損なう恐れがある地域に対して、住環境の保全を目的として指定する都市計画区域。

*3: 都市計画区域内の土地における、住宅地・商業地・工業地等の土地利用区分。

*4: 道路や公園・下水道等都市に必要なインフラのうち都市計画で計画決定された施設。

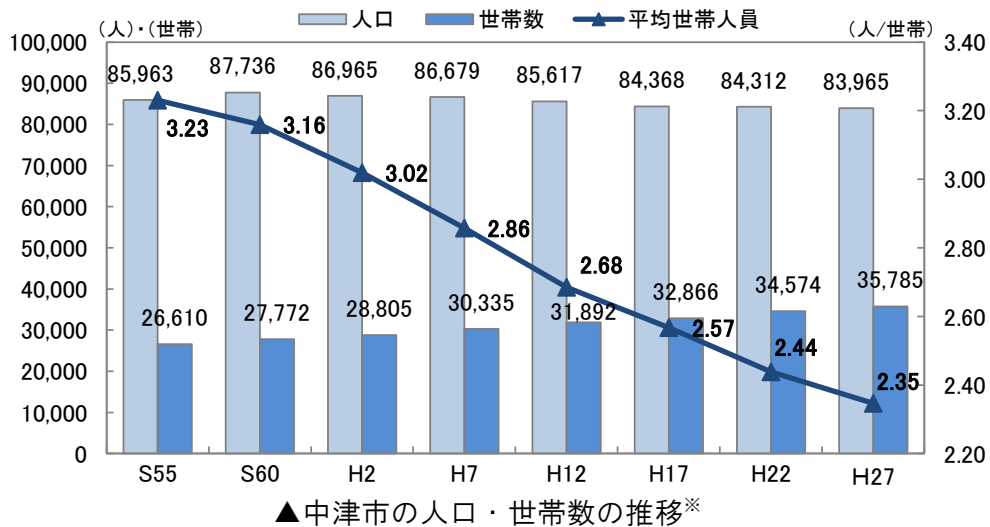
(2) 人口・産業

1) 人口動向

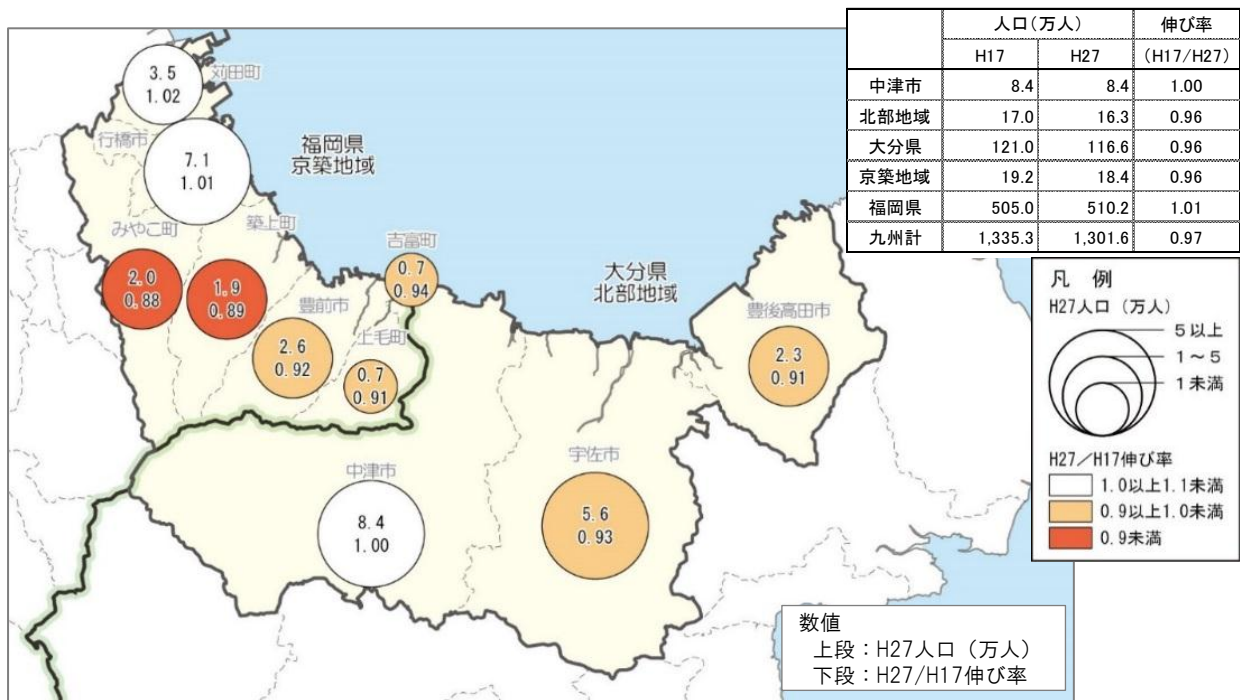
①人口及び世帯数 -緩やかな人口減少-

本市の人口は、昭和60年以降は緩やかな減少傾向となっている。近年では、人口はほぼ横ばいの推移となっているが、世帯数は増加し続けているため、平均世帯人員は年々減少している。

また、中津市の近隣市町村では人口が減少しており、中津市・宇佐市・豊後高田市の3市で構成される県北地域全体を見ると人口減となっている。



資料：国勢調査



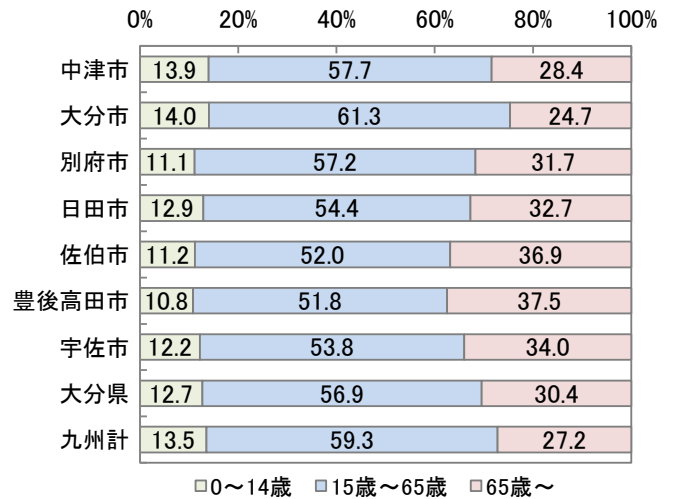
資料：国勢調査

※：平成29年3月現在、平成27年常住人口・屋間人口は未公表。

②年齢構成 -年々進展する高齢化-

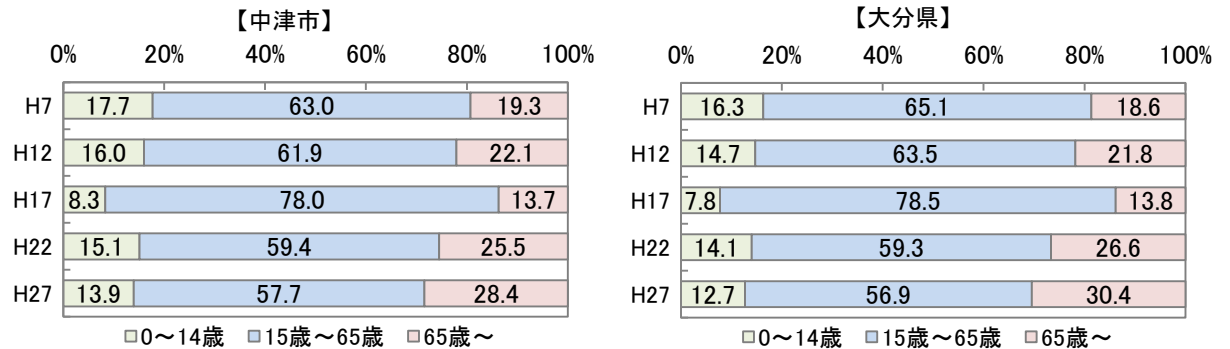
老年人口(65歳以上)の割合をみると、平成27年では28.4%を占めており、これは県平均を下回るものの、九州平均を上回る水準となっている。

経年変化をみると、平成7年から平成27年までの20年間で、9.1ポイント上昇(19.3%→28.4%)しているが、県平均(11.8ポイント上昇:18.6%→30.4%)や北部地域(9.7ポイント上昇:21.9%→31.6%)に比べると緩やかな変化となっている。



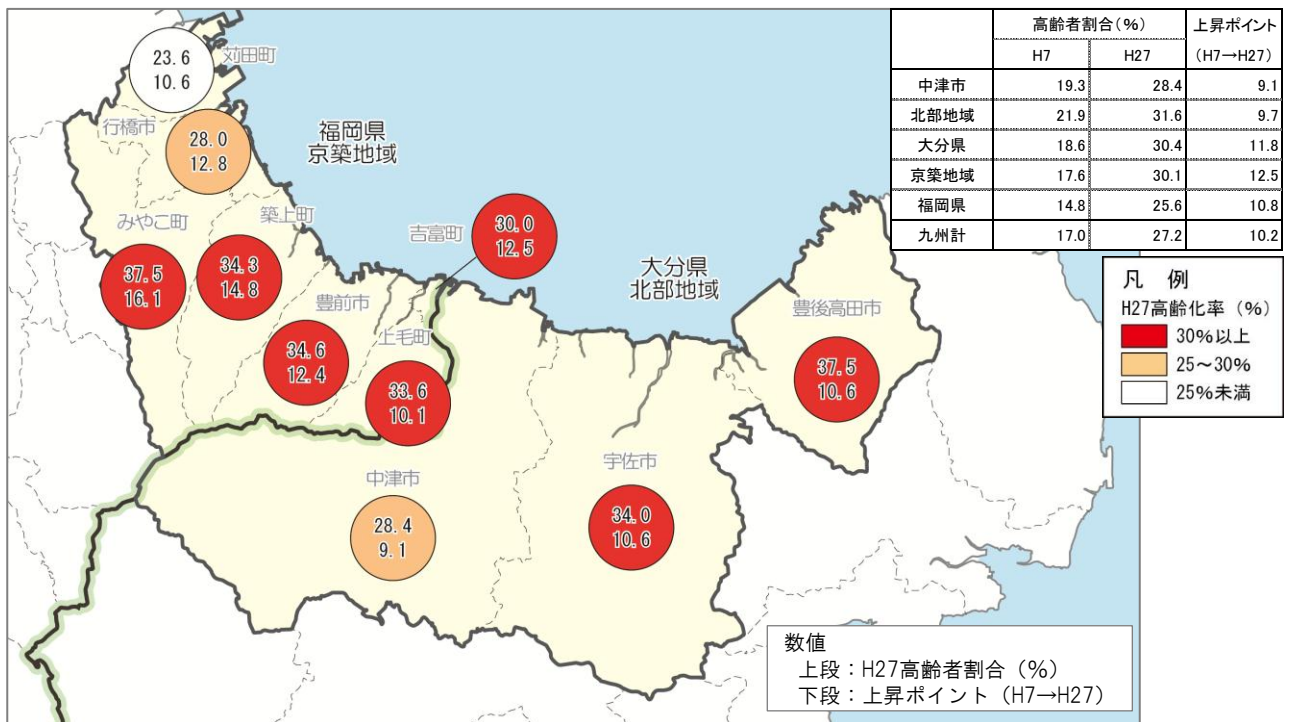
▲年齢階層別人口構成の比率 (平成27年)

資料：国勢調査



▲年齢階層別人口構成の経年変化

資料：国勢調査



▲平成27年高齢化率と上昇ポイント

資料：国勢調査

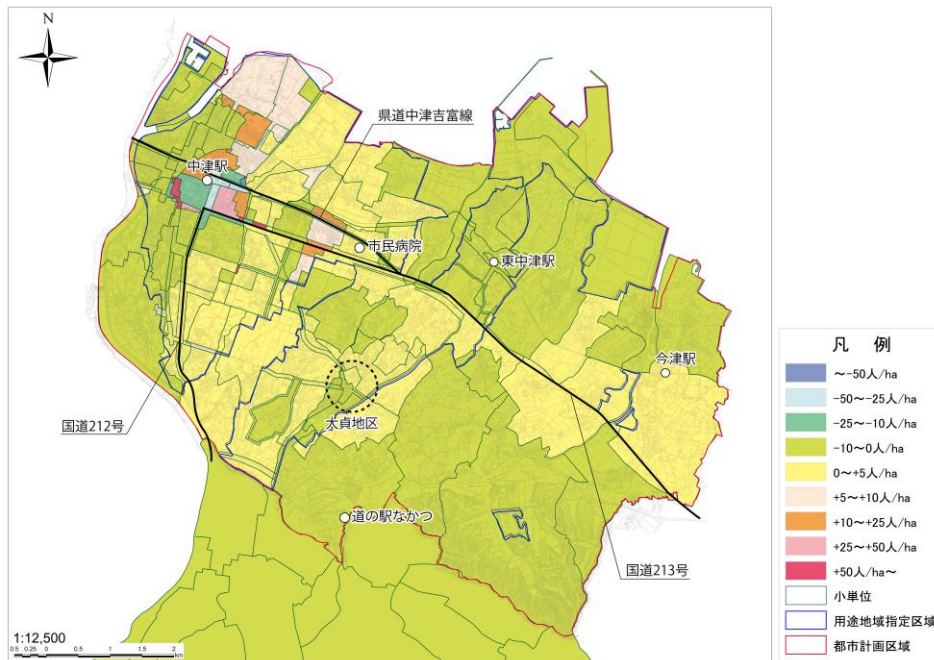


③人口分布

-中心市街地での人口減少・増加地区の混在と、その周辺地区での人口増加-

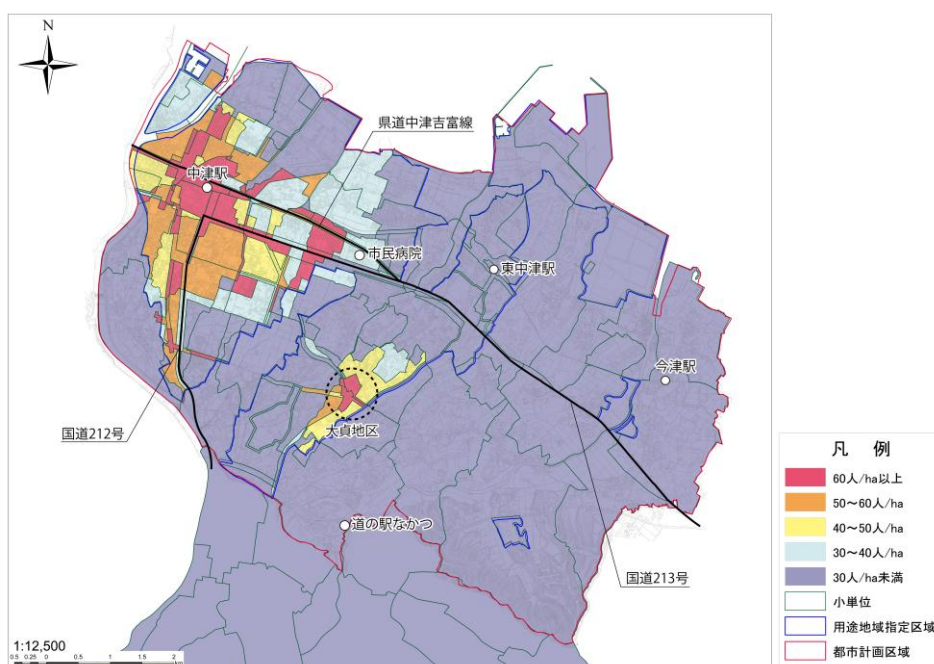
地区別人口密度の増減をみると、JR中津駅を中心とする中心市街地では増加・減少ともに発生し、その人口増減の幅は大きくなっている。一方で、中心市街地の周辺部では人口の増加がみられ、市街地の拡大が進んでいるものと考えられる。

人口密度の分布からは、中心市街地から国道212号、国道213号、県道中津吉富線等の幹線道路沿線にかけて人口密度が高い他、郊外の大貞地区においても高くなっている。



▲地区別人口密度増減図 (H22/H17)

資料：都市計画基礎調査



▲地区別人口密度図 (H22)

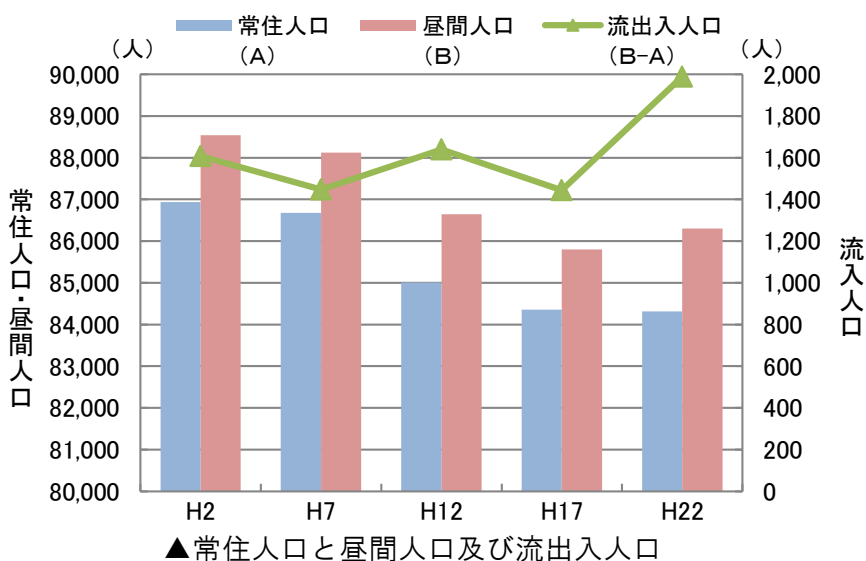
資料：都市計画基礎調査

④流出入人口（通勤・通学） -福岡県側を含む周辺地域の就業・就学地として機能-

周辺市町村との通勤・通学等による流出入人口は、平成2年から平成17年にかけて1,500人前後の流入超過で推移してきたが、平成22年には500人ほど多い2,000人の流入超過となっている。これは年々減り続けていた昼間人口が平成22年に微増へと転じたためと考えられる。

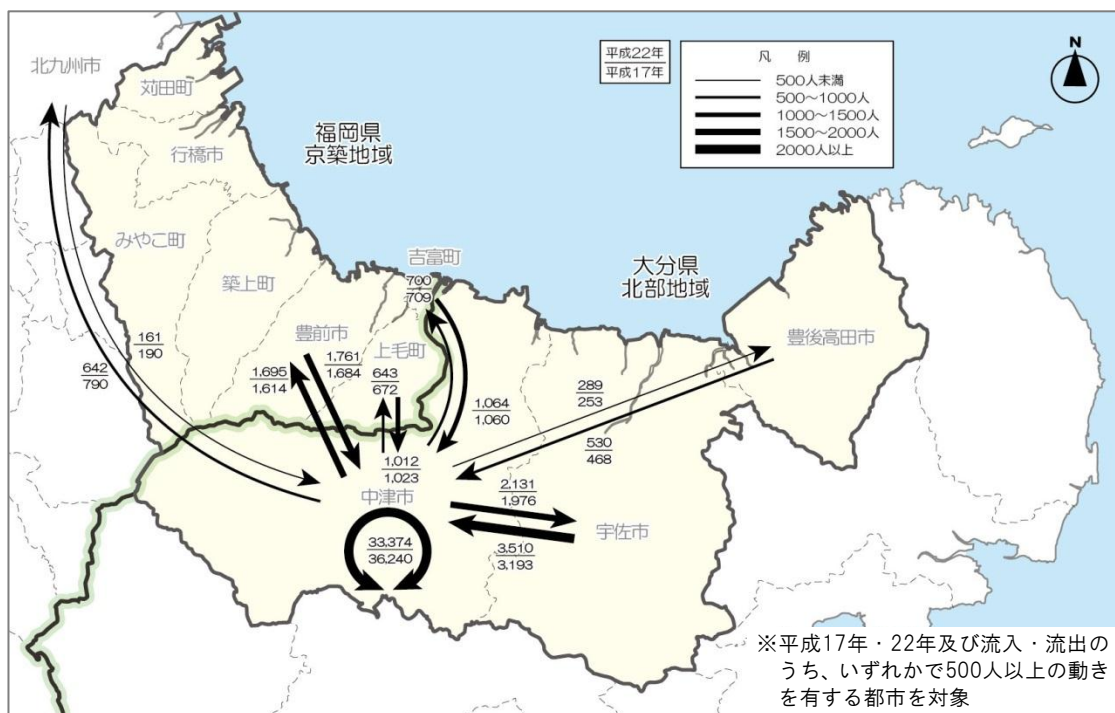
通勤・通学流動の発着地域をみると、宇佐市、豊前市、吉富町、上毛町等との流動が活発であり、福岡県側も含む周辺地域の就業・就学地として機能している。

近年の推移をみると、周辺地域からの流入増に加えて、中津市から周辺地域への流出も増加しており、地域間流動の広域化、双方向化の傾向が伺える。



▲常住人口と昼間人口及び流出入人口

資料：国勢調査



▲通勤・通学流動

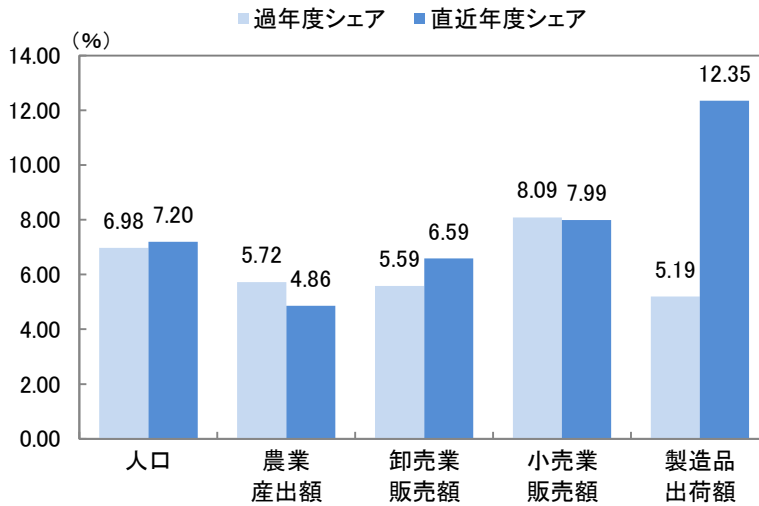
資料：国勢調査



2) 産業構造と動向

①概況 -商業・工業で高い拠点性-

産業活動の対県内シェアから中津市の産業構造を概観すると、人口以上のシェアを持つのは小売業販売額と製造品出荷額であり、商業・工業で高い拠点性を有していることがわかる。経年変化をみると、特に製造品出荷額の伸びが約2倍と突出して伸びている。これは、近年の中津市への企業進出が大きく影響しているものと見られる。



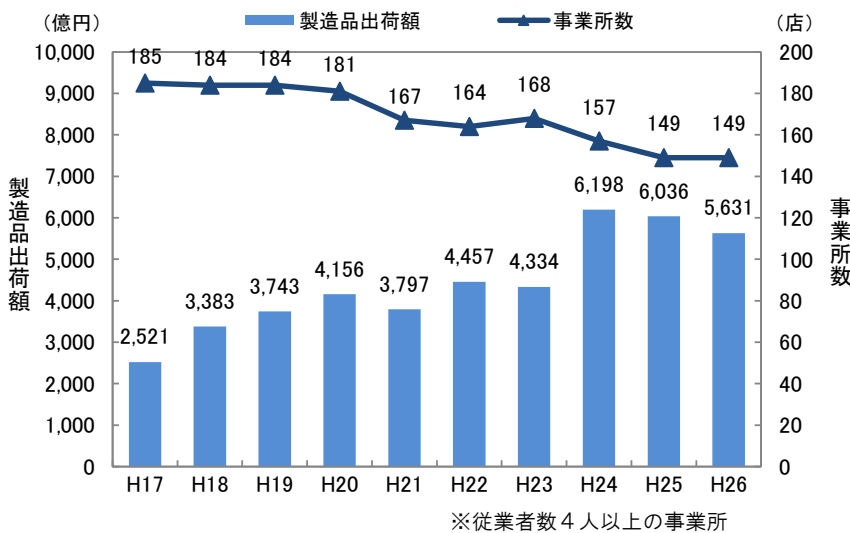
資料：人口 国勢調査 (H17/H27)
 農業産出額 農林水産統計 (H16)
 市町村別農業産出額 (推計) (H26)
 卸売業販売額 商業統計調査 (H16/H26)
 小売業販売額 商業統計調査 (H16/H26)
 製造品出荷額 工業統計調査 (H16/H26)

▲産業活動の対県内シェア

②工業 -輸送用機械製造業（自動車産業）が中心産業-

製造品出荷額は平成24年に急増し6,000億円を超えたが、その後、緩やかな減少傾向にある。それでも平成26年と10年前の平成17年とを比較すると2倍以上の大きな伸びとなっている。一方、事業所数は年々減り続けている。

産業別にみると、自動車産業が主体の輸送用機械製造業が7割以上を占めており、中津市の産業の中心となっていることが伺える。



▲出荷額と事業所数の推移

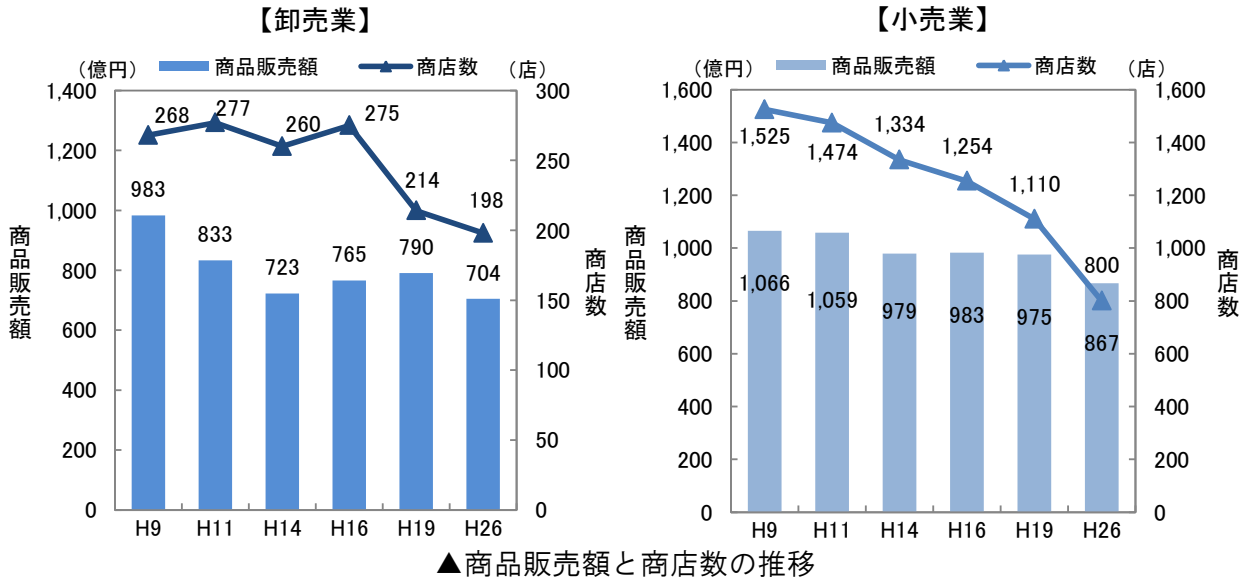
資料：工業統計調査

	平成26年	
	出荷額(万円)	構成比(%)
総数	56,312,054	100.00
食料品	1,915,267	3.40
飲料・たばこ	40,564	0.07
繊維	101,610	0.18
木材	182,856	0.32
家具	59,481	0.11
出版・印刷	227,315	0.40
プラスチック	681,185	1.21
窯業・土石	2,221,388	3.94
鉄鋼	375,775	0.67
金属製品	385,152	0.68
はん用機械	499,217	0.89
生産用機械	278,815	0.50
電子部品	5,579,296	9.91
電気機器	1,009,401	1.79
輸送機械	41,737,371	74.12
その他製品	35,212	0.06

③商業 -商店数の減少と大型店舗の郊外化-

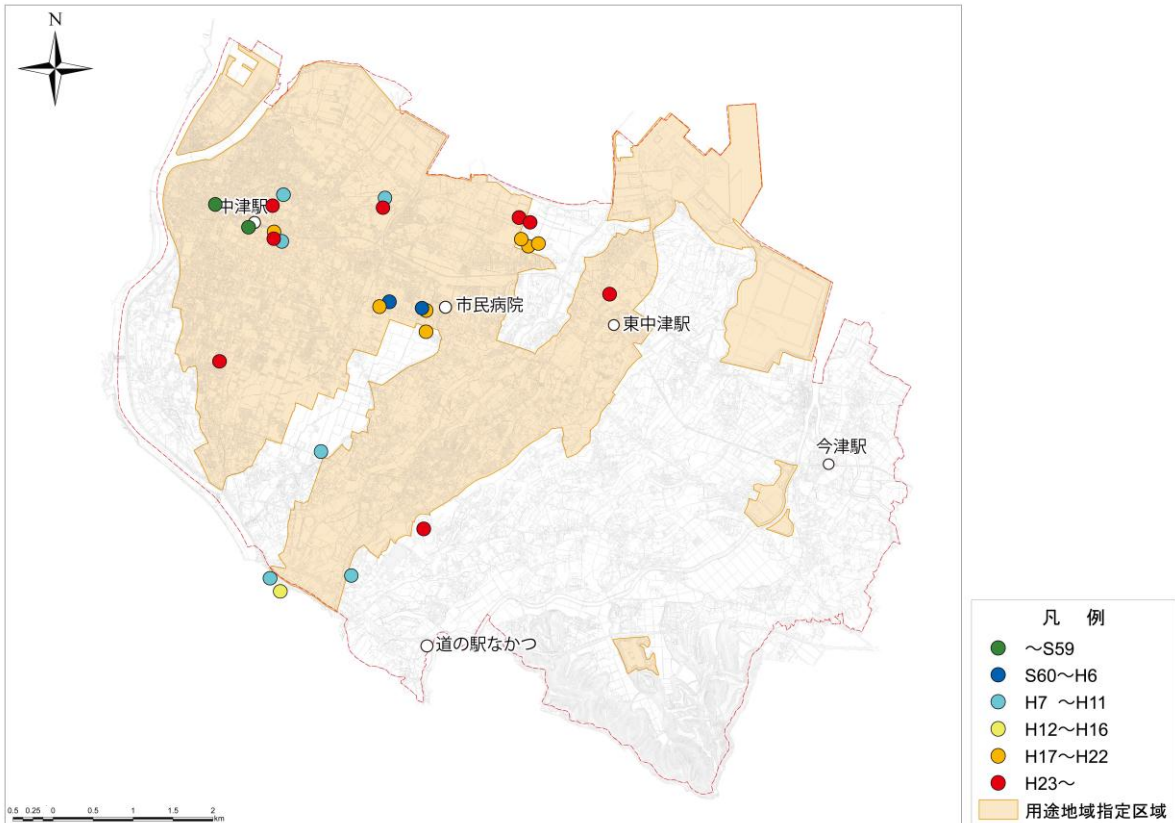
中津市の卸売・小売業は、江戸期の藩政時代から城下で発達してきた古い歴史を持ち、その後も高い購買力を維持してきた。近年では、卸売業での商品販売額は平成14年で下げ止まり回復傾向であったが、平成26年で減少し、小売業の商品販売額や商店数は年々減少傾向にある。

また、大型小売店の立地動向をみると、近年は郊外部への立地が進んでいる。



▲商品販売額と商店数の推移

資料：商業統計調査



▲大型小売店の立地動向

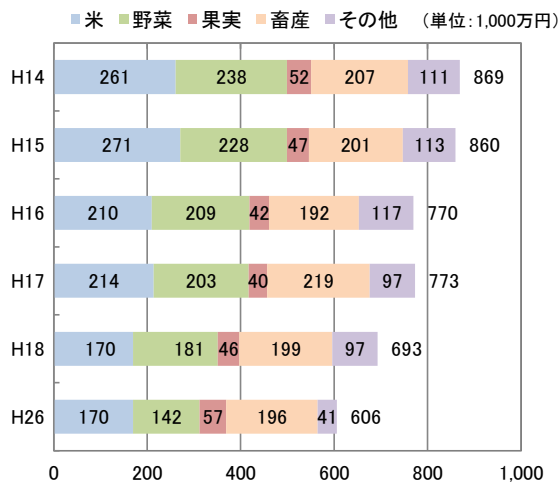
資料：都市計画基礎調査



④農業 -農家数・農業産出額の減少-

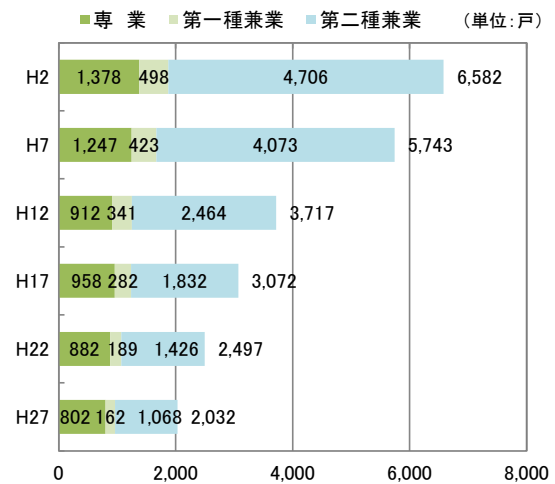
中津市は、北部の平野部と南部の中山間地域^{*5}で構成される。平野部は古くから水田や畑地、果樹園が多く、隣接の宇佐平野とともに県北の穀倉地帯を形成している。また、中山間地域においては水田が主体である。また、北九州に近い地の利を活かし、都市近郊農業^{*6}が発展し、野菜、果樹の出荷も多く、畜産も盛んである。

近年の動向をみると、農家数は年々減少しており、それに伴って農業産出額は緩やかな減少傾向にある。



▲農業産出額の推移

資料：大分農林水産統計年報（平成14～18年）
平成26年市町村別農業産出額（推計）



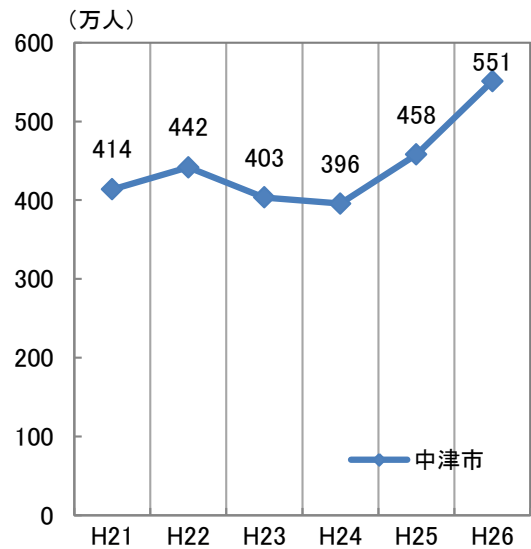
▲農家数の推移

資料：農林業センサス

⑤観光 -500万人を超える観光入込客数-

中津市には、「福澤諭吉旧居」や「中津城」等の城下町、「名勝耶馬溪」を代表とする自然、「羅漢寺」、「薦神社」といった歴史文化、「メイプル耶馬サイクリングロード」等の多種多様なポテンシャルの高い観光素材が数多く分布しており、その他にも全国区となったグルメ「中津からあげ」の50を越す店舗や「道の駅なかつ」等の人気のある施設が存在する。

年間観光入込客数は、平成21年は414万人であったが、平成26年には500万人を超える誘客があり、前述の観光素材に加え、近年の大河ドラマ「軍師官兵衛」ゆかりの地事業や大型観光キャンペーン等の効果によるものと見られる。



▲観光入込客数の推移

資料：観光動態調査

*5: 平野の外縁部から山間地を指し、我が国農業の中で重要な位置を占める地域。

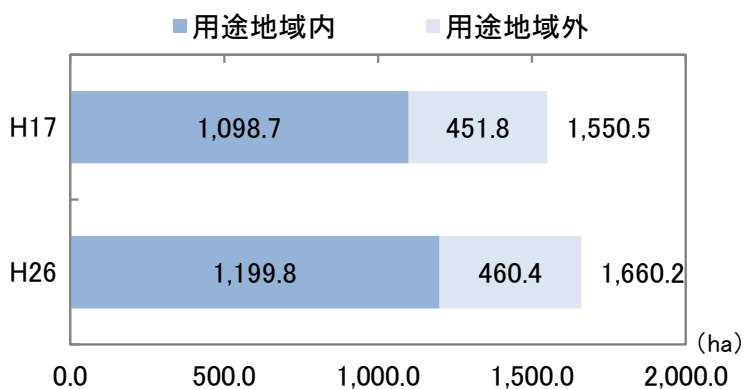
*6: 都市(消費地)に近い特性を生かした、都市内の農地や都市近郊の農地で行う農業のこと。

(3) 都市構造の現況整理

1) 土地利用

①土地利用の動向 -農地転用*7等による宅地の増加-

近年の土地利用動向をみると、宅地面積は約1,551haから約1,660haへと9年間で約110ha増加している。なお、これらの増加は、農地やその他自然地の開発によるものと考えられる。



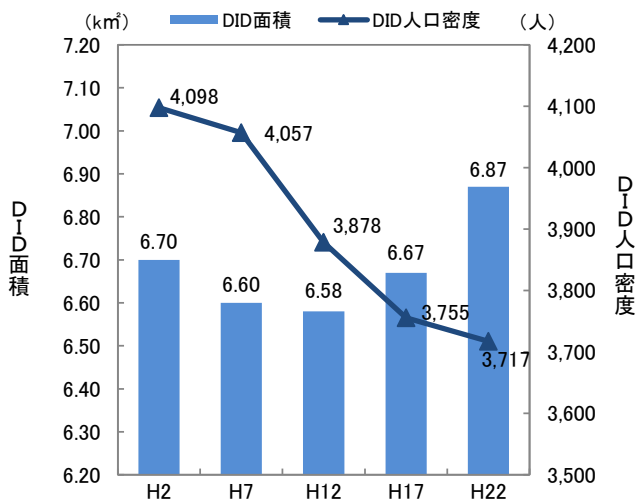
▲宅地面積の変化

資料：都市計画基礎調査

②市街地の動向 -市街地の拡大と低密度化-

市街地の動向をみると、人口集中地区(DID)*8の面積は、平成12年までは減少傾向にあったが、その後増加に転じている。

一方、人口集中地区における人口密度については、平成2年から減少傾向が続いており、低密度な市街地が拡大していることが伺える。



▲人口集中地区の面積と人口密度の経年変化

資料：国勢調査

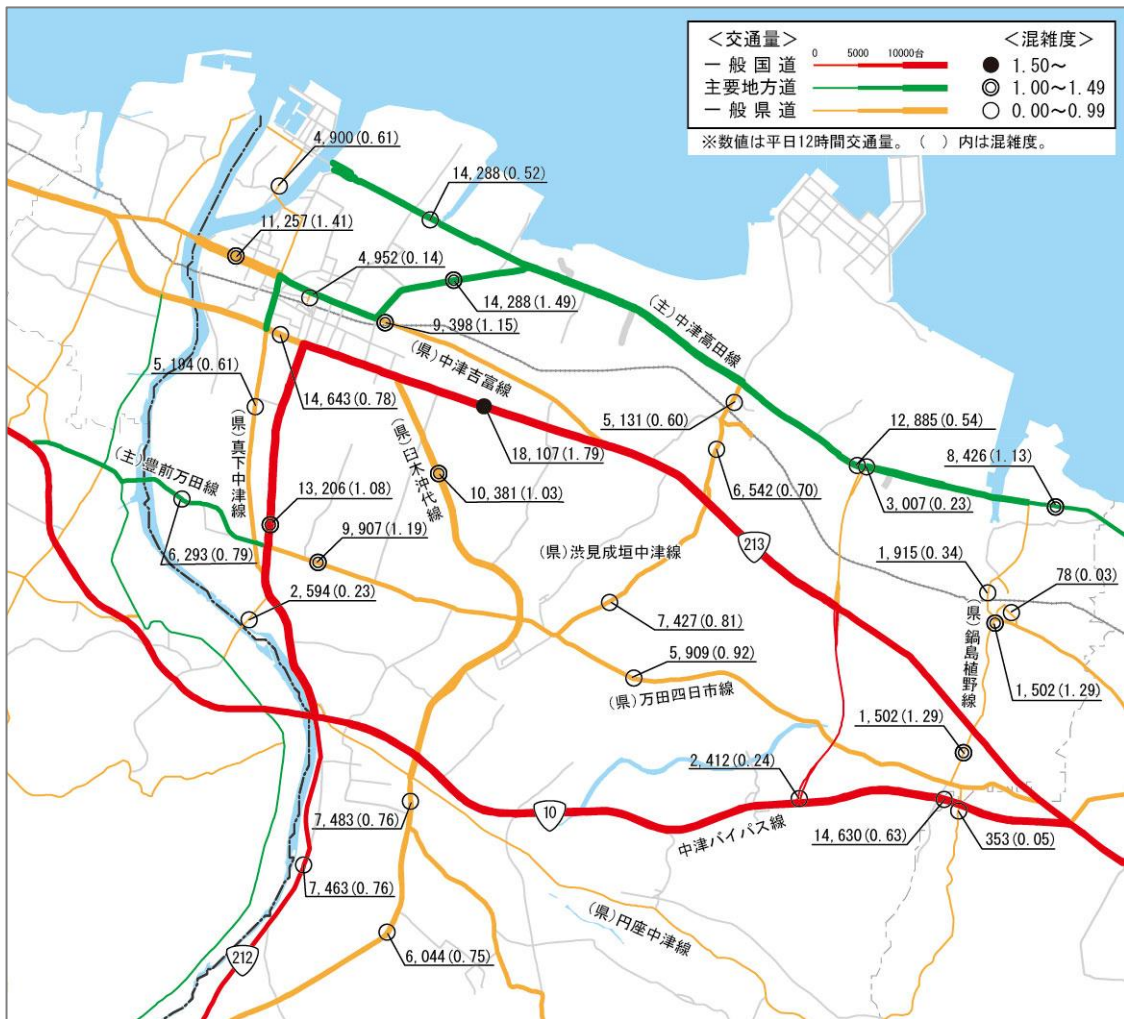
*7: 主に農地を農地以外の土地利用に転用すること。

*8: 人口密度の高い基本単位区(原則として人口密度が4,000人/km²以上)が隣接して、その人口が5,000人以上となる地域のこと。

2) 交通体系

①道路交通 - 幹線道路の混雑-

中津市の道路網は、国道10号、国道213号、国道212号、県道中津高田線等によって骨格が形成されている。それらの幹線路線では、1万台/12時間以上の交通量が流れているが、4車線区間が少ないこともあり、市街地を中心に混雑区間が多くなっている。



▲ 現況道路網と交通量

資料：H22道路交通センサス

▼ 参考：混雑度の解釈

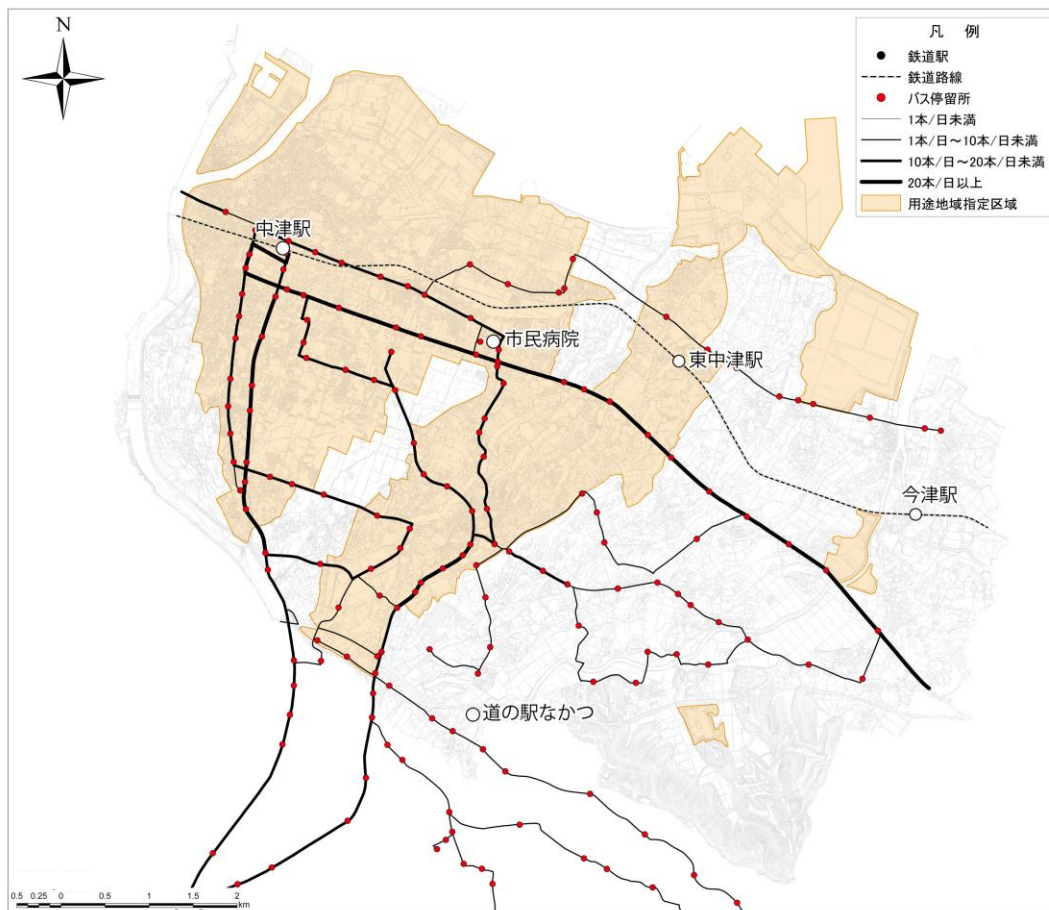
混雑度	交通状況の推定
1.00未満	昼夜12時間を通して、ほとんど円滑に走行できる
1.00～1.25	ピーク時に混雑するが、ピーク時以外では混雑可能性は少ない
1.25～1.75	ピーク時はもとより、ピーク時間以外でも混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態
1.75以上	慢性的混雑状態を呈する

資料：道路の交通容量（日本道路協会）を要約

②公共交通 -中津駅を中心とした公共交通ネットワークの形成-

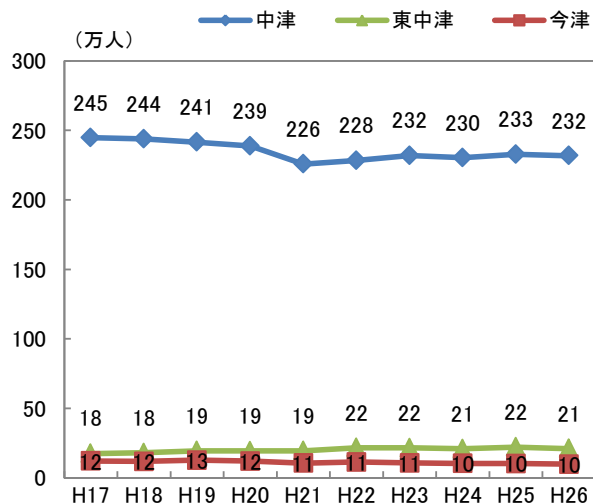
中津市内には、中津駅、東中津駅、今津駅の3駅が設置されている。中津駅は、市南部に広い駅圏域を有しており、年間232万人(平成26年)の乗降客を誇っている。平成21年まで乗降客数は減少傾向にあったが、それ以降は微増傾向にある。

バス路線網は中津駅を中心とした広域的なネットワークが形成されているが、一部に公共交通空白地も存在する。



▲鉄道・バス路線図

資料：都市計画基礎調査



▲鉄道駅乗降客数の推移

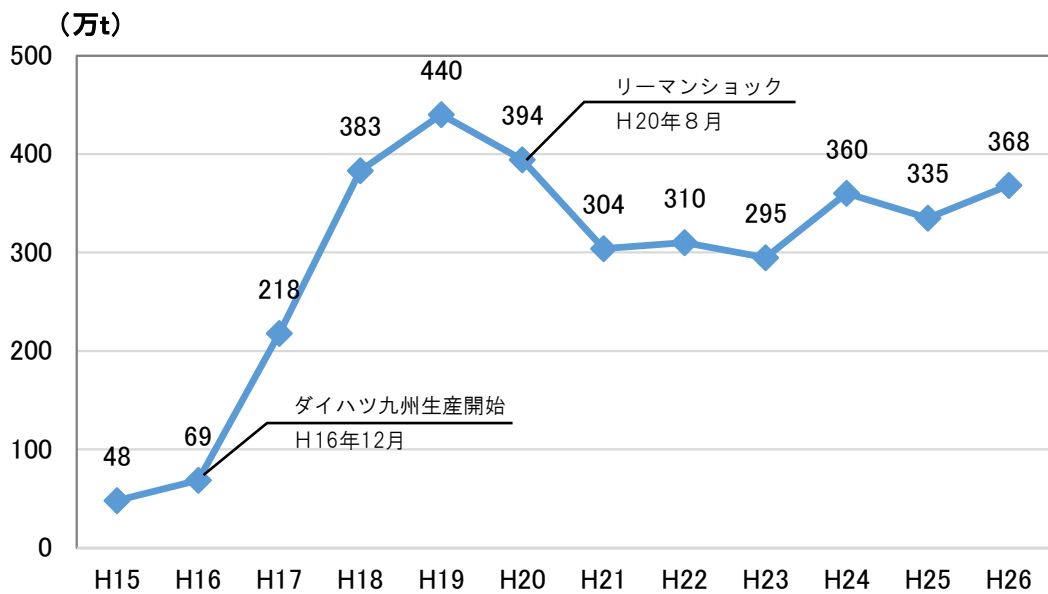
資料：九州旅客鉄道株式会社



③港湾（中津港） -海上輸送のネットワーク拠点として機能充実-

平成11年に重要港湾*⁹に昇格した中津港は、大分県北部地域のほか、日田地域を背後圏としており、平成16年には多目的国際ターミナル等の供用を開始した。貨物取扱量については、自動車関連産業の進出で増加傾向にあったが、リーマンショックの影響で一時減少した。その後、景気の回復等の影響もあり貨物取扱量は回復傾向となっている。

また、平成27年には東九州自動車道と臨港道路が直結され、翌年には東九州自動車道が北九州市から宮崎市までつながり、今後中津日田道路の延伸も予定されていることから、中津港へのアクセスが向上され、海上輸送ネットワーク拠点として重要性が高まることが予想されている。



▲取扱貨物量

資料：港湾統計（平成27年度版）



▲中津港

*⁹: 港湾法が適用される港湾のうち、国の利害に重大な関係を有する政令で定められた港湾のこと。

3) 都市計画施設（公共下水道・都市計画公園*¹⁰・都市計画道路*¹¹の整備状況）

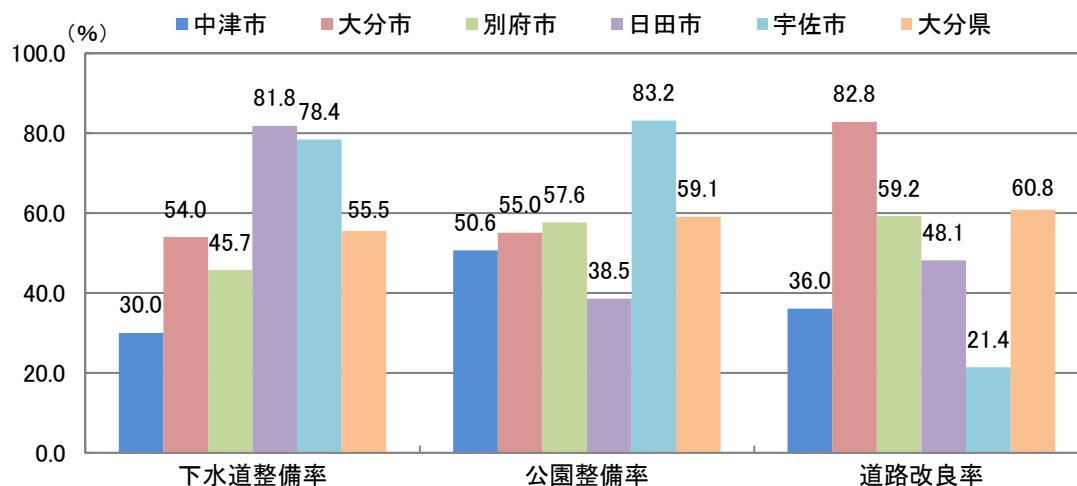
-都市計画施設の整備促進-

都市計画施設の整備状況をみると、公共下水道、都市計画公園、都市計画道路それぞれ大分県平均よりも低い水準にあり、さらなる整備促進が望まれる。

▼都市計画施設の整備状況の比較（平成28年3月現在）

		中津市	大分市	別府市	日田市	宇佐市	大分県
公共下水道(特定公共下水道を含む)							
下水管渠(m)	計画	2,640	18,740	3,950	2,460	16,150	84,659
	供用	2,640	18,740	3,950	2,460	14,534	82,876
排水区域面積(ha)	計画 A	2,588	10,180	2,826	1,457	610	21,442
	供用 B	776	5,495	1,291	1,192	478	11,891
整備率(%) B/A		30.0	54.0	45.7	81.8	78.4	55.5
都市計画公園							
箇所数	計画	28	229	35	26	11	419
	供用	20	207	29	22	10	365
面積(ha)	計画 A	102.2	712.5	136.9	96.2	18.5	1356.9
	供用 B	51.8	392.2	78.9	37.1	15.4	801.9
整備率(%) B/A		50.6	55.0	57.6	38.5	83.2	59.1
都市計画道路※暫定供用区間は除く							
延長(km)	計画 A	93.5	392.4	69.9	65.6	82.0	952.6
	改良済 B	33.7	325.0	41.4	31.6	17.5	579.5
改良率(%) B/A		36.0	82.8	59.2	48.1	21.4	60.8

資料：大分県の都市計画（資料編）



*¹⁰: 都市計画区域内において、都市計画法に基づいて都市計画決定された公園。公園の種別としては、街区公園、近隣公園、地区公園、総合公園、運動公園、広域公園、特殊公園がある。

*¹¹: 都市の骨格を形成し、安心で安全な市民生活と機能的な都市活動を確保するために、都市計画法に基づいて都市計画決定された道路。



1-2 上位・関連計画等の整理

中津市都市計画マスタープランは、「中津都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(中津都市計画区域マスタープラン)(平成23年3月改訂)」及び「第五次中津市総合計画(平成29年3月策定)」に即して、土地利用や公園緑地等に関する計画を定めるものであり、中津市における都市計画の方向性を定めるものとして位置づけられることから、これらの上位・関連計画について概要を整理する。

(1) 中津都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

(中津都市計画区域マスタープラン) (平成23年3月改訂) 【概要抜粋】

●都市の将来像

視点1: 必要な都市機能が集積した都市づくり

- ⇒高齢社会に対応した、移動距離が少なくすむコンパクトな都市づくりを目指します。
- ⇒その実現のため、過度に「車」に依存せず、公共交通の利用が促進され、歩行者・自転車も安全で快適に移動できる都市づくりを目指します。

視点2: 地域の魅力や価値の向上があふれる都市づくり

- ⇒地域の個性を活かし、賑わいがあふれる魅力を創出し中心市街地の再生と活性化を目指します。
- ⇒まちなかの空き地空き家の活用により定住促進を図るとともに、郊外の大規模住宅開発等を抑制します。

視点3: 安全で安心して暮らせる都市づくり

- ⇒災害対策と防災機能の強化を図り、災害に強い都市づくりを進めます。
- ⇒まちなかを安全・快適に移動・活動することが出来るよう都市基盤の整備やバリアフリー^{*12}、ユニバーサルデザイン^{*13}化を進めます。
- ⇒防犯性の向上に資する施策を講じます。

視点4: 歴史・文化を保全し、観光資源を創出する美しい都市づくり

- ⇒多様な主体が協働して二酸化炭素の排出の少ない都市づくり(エコ・コンパクトシティ)を目指します。
- ⇒大分県が誇る地域特有の歴史・都市景観等を保全し、美しい県土を次世代に継承する都市づくりを進めます。

視点5: 私たちの地域は私たちがつくる地域主体の都市づくり

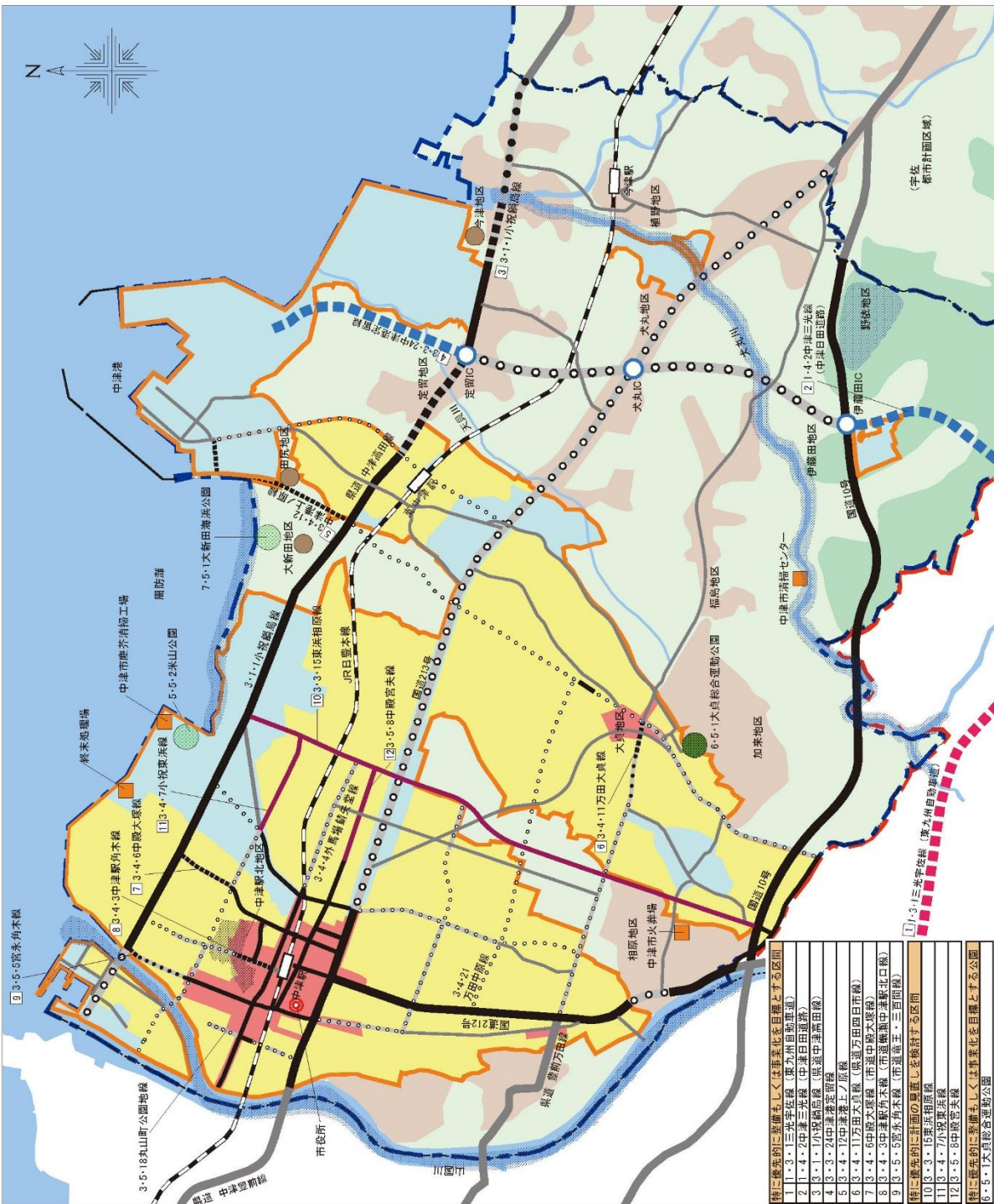
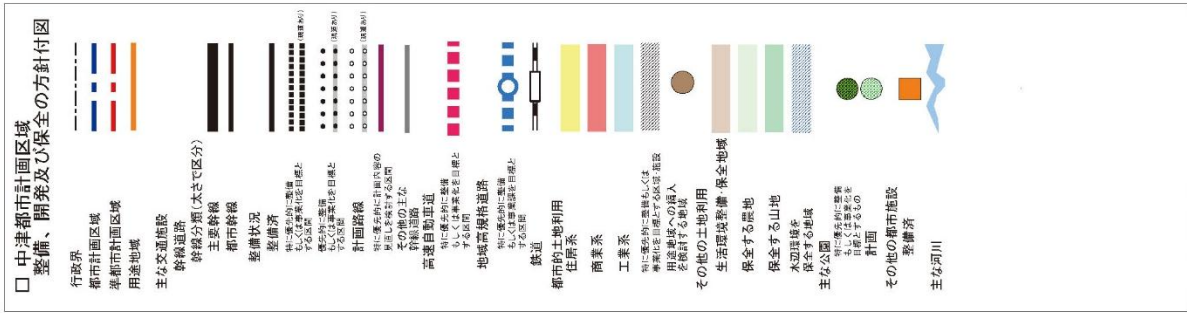
- ⇒「私たちの地域は私たちがつくる」という地域の主体性を向上するため、都市づくりの様々な段階で多様な主体が参加できる仕組みを構築します。

《将来都市づくりのテーマ》

『自然の幸・都市の幸をはぐくみ、次世代につなぐ、私たちの都市づくり』

*12: 障がい者や高齢者等の行動・生活上の障害を取り除いた環境のこと。公共空間では、段差のない歩道やエレベーターの設置、ノンステップバス等がバリアフリー施設となる。

*13: 年齢、性別、身体、言語等、人々が持つ様々な特性や違いを超えて、はじめからできるだけ全ての人が利用しやすいよう配慮した環境、建物、製品のデザイン。



(2) 第五次中津市総合計画（平成29年3月策定）

なかつ安心・元気・未来プラン2017の構成

【将来都市像と基本目標】

暮らし満足No.1のまち「中津」

- 子どもの将来における可能性が最大限広がるまち
- 若者が未来を描くために必要な社会環境（雇用、生活、余暇、子育て、出会いの場など）が整っているまち
- 高齢者がいつまでも健康で、生きがいをもって暮らせるまち
- 男女や年齢の差、障がいの有無に関わらず、互いに支えあいながらコミュニティの一員として元気に活躍できるまち
- ふるさとを愛し、ふるさとの価値を次世代へ繋ぐまち

- 「変化」「挑戦」「創造」
- 市民協働体制の構築と情報公開
- 多角的な視点と一体的な振興
- 持続可能な財政運営との両立

今の時代に
求められて
いること

○人口減少と少子高齢化
への対応

○情報化、グローバル化
への対応

○多様化への対応

○あらゆる災害への対応

安
心

- 医療・保健の充実
- 高齢者福祉と活躍の場づくり
- 子ども・子育て支援の充実
- 障がい者の自立支援
- 地域コミュニティの活性化
- 災害に強い安全なまちづくり
- 安心して暮らせるまちづくり

元
気

- 企業誘致と地場企業の育成
- 一次産業振興・六次産業化
- 山国川上下流域を結ぶ観光振興
- 移住促進
- まちのにぎわいづくり
- 文化・スポーツの振興

未
来

- 学びたい教育のまちづくり
- 生涯学習・産業教育の推進
- 環境の保全
- インフラ整備・維持

参
加
・
連
携
・
結
集

▼▼
市民との対話
あらゆる主体との連携

1-3 市民の意識調査

都市計画マスタープランへの市民の意向を反映するにあたり、市民アンケートの結果及び「市長と話そう ふれあい座談会」での意見を以下に整理する。

1-3-1 市民アンケート結果

平成24年2月に実施した「中津市都市計画マスタープラン見直しに伴う中津市の将来像に関するアンケート調査」の実施をもとに、市民の意向について以下に整理する。

(1) アンケートの配布・回収状況

▼市民アンケートの配布・回収状況

調査票 (回答者区分)	配布数	回収数	回収率 (%)	備考
一般	3,000	836	27.9	・市内居住者を対象に無作為抽出
高校生	169	169	100.0	・市内の高校2年生全生徒を対象
合計	3,169	1,005	31.7	



▲三光コスモス園



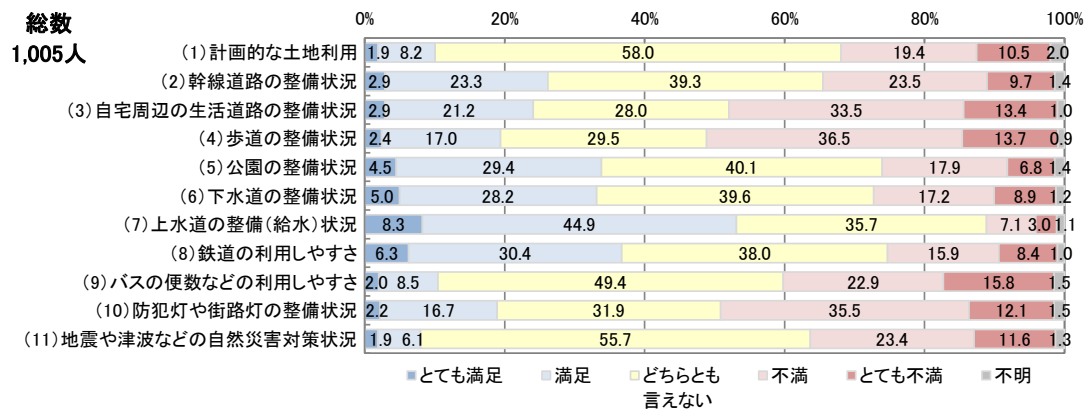
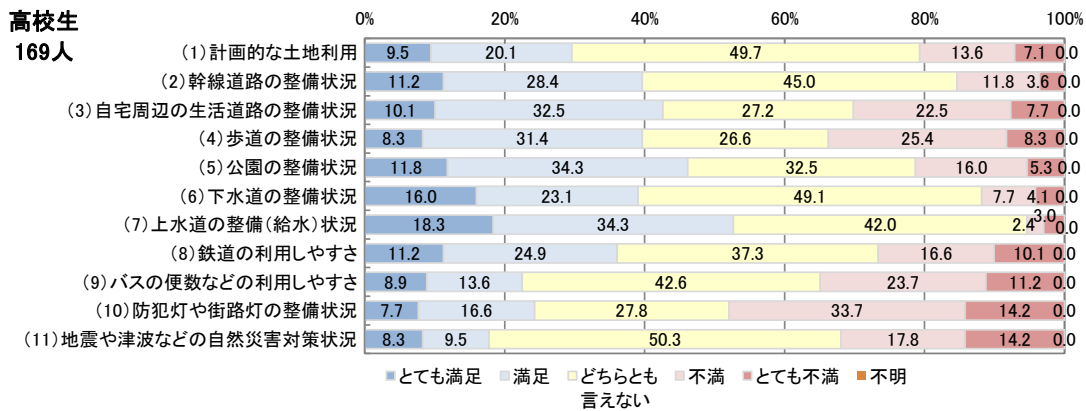
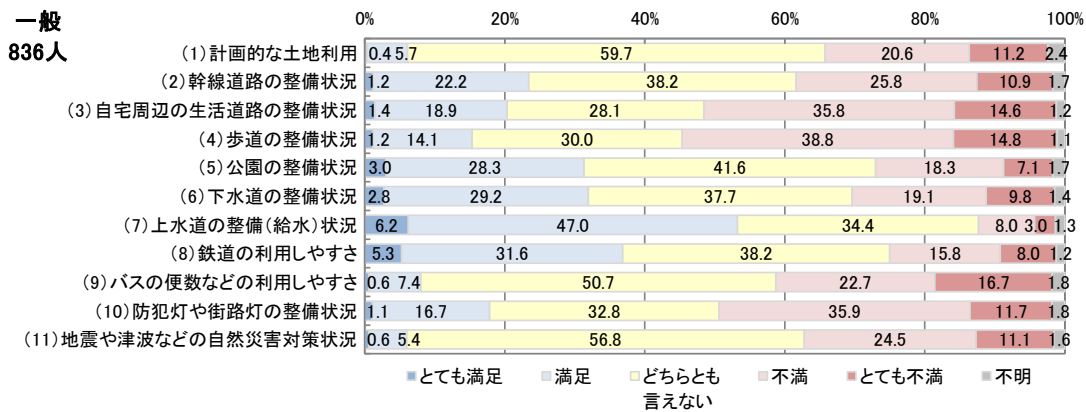
▲大貞総合運動公園野球場



(2) アンケート結果

1) 生活環境の満足度

- ・土地利用・幹線道路・生活道路・歩道に対する満足度について、一般の方は不満度の割合が高いが、高校生は満足の割合が高い。
- ・公園・上下水道・鉄道に対する満足度は、一般の方・高校生ともに満足の割合が高い。
- ・なお、バスの利便性や防犯・防災に対する満足度は、一般の方・高校生ともに不満の割合が高い。

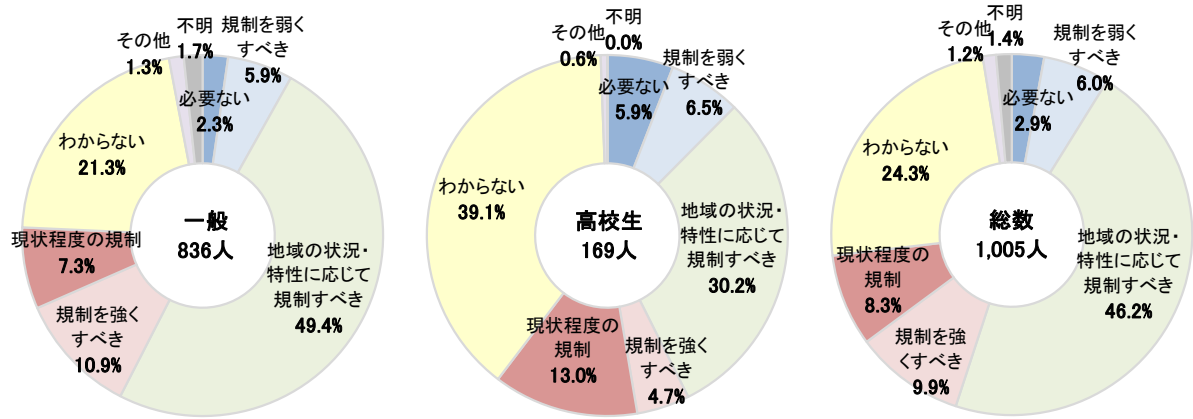


▲生活環境の満足度

2) まちづくりの今後の方向性

①今後の土地利用

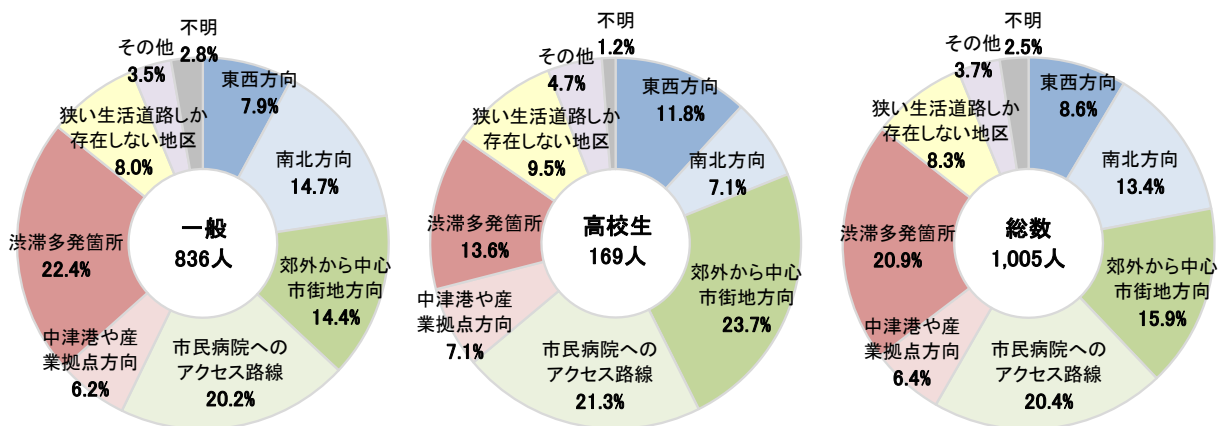
・一般の方及び高校生ともに、地域の状況や特性に応じて規制への意見が多い。



▲今後の土地利用

②優先的に整備すべき幹線道路

- ・一般の方からは、渋滞が多発している箇所が最も多く、次いで、市民病院へのアクセス路線が多い。
- ・高校生からは、郊外から中心市街地へ向かう路線が最も多く、次いで市民病院へのアクセス路線が多い。

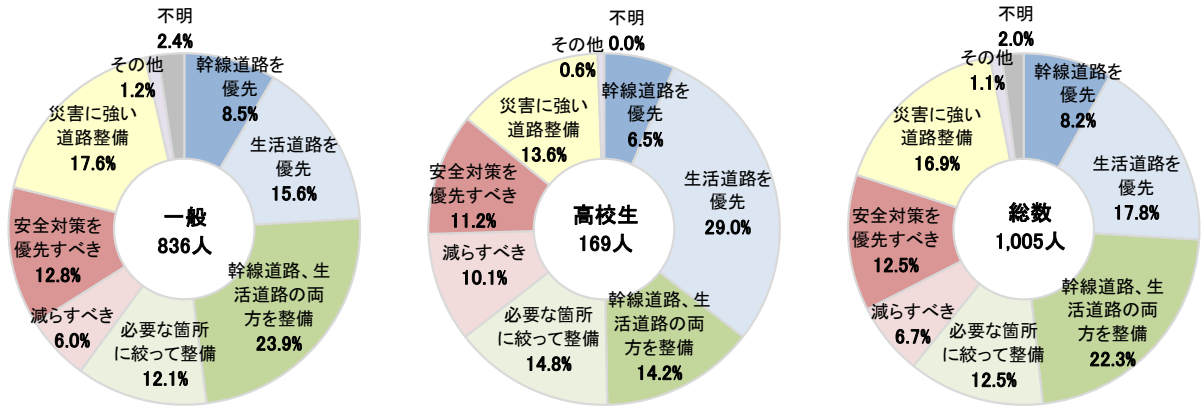


▲優先的に整備すべき幹線道路



③今後の道路整備

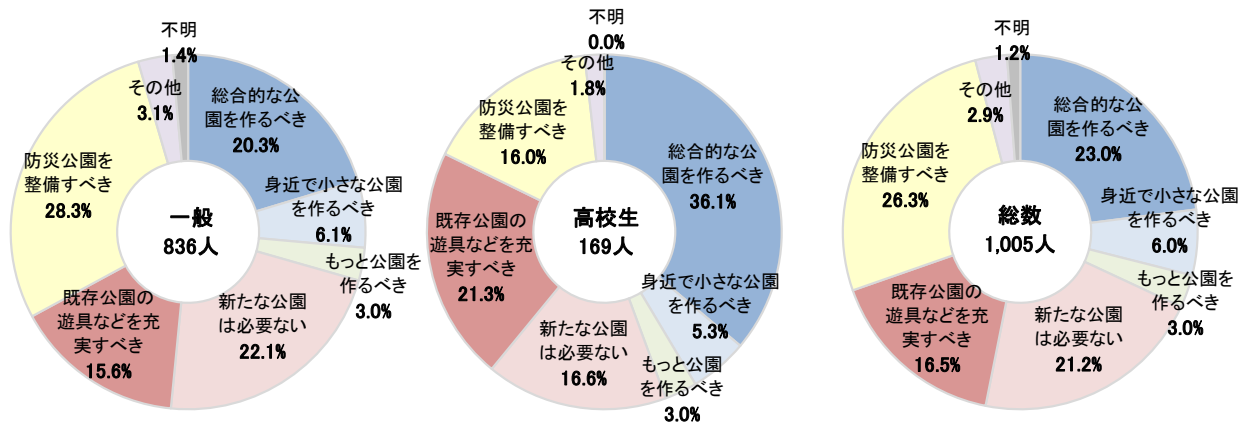
- ・一般の方からは、幹線道路と生活道路の両方を整備するとの意見が多い。
- ・高校生からは、生活道路を優先的に整備するとの意見が多い。



▲今後の道路整備

④今後の公園整備

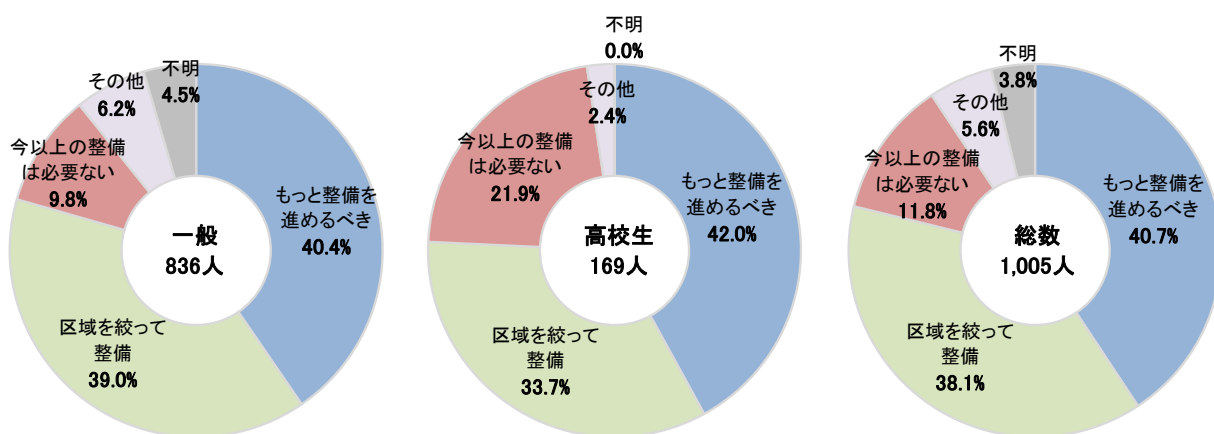
- ・一般の方からは、災害時の避難場所となる防災公園の整備が最も多く、次いで、新たな公園は必要なしとの意見及びスポーツやレクリエーションが行える総合的な公園の整備が多い。
- ・高校生からは、スポーツやレクリエーションが行える総合的な公園整備が最も多く、次いで、既存公園の遊具等の充実への意見が多い。



▲今後の公園整備

⑤今後の下水道整備

・一般の方及び高校生ともに、もっと整備を進めるが最も多く、次いで区域を絞って整備が多い。

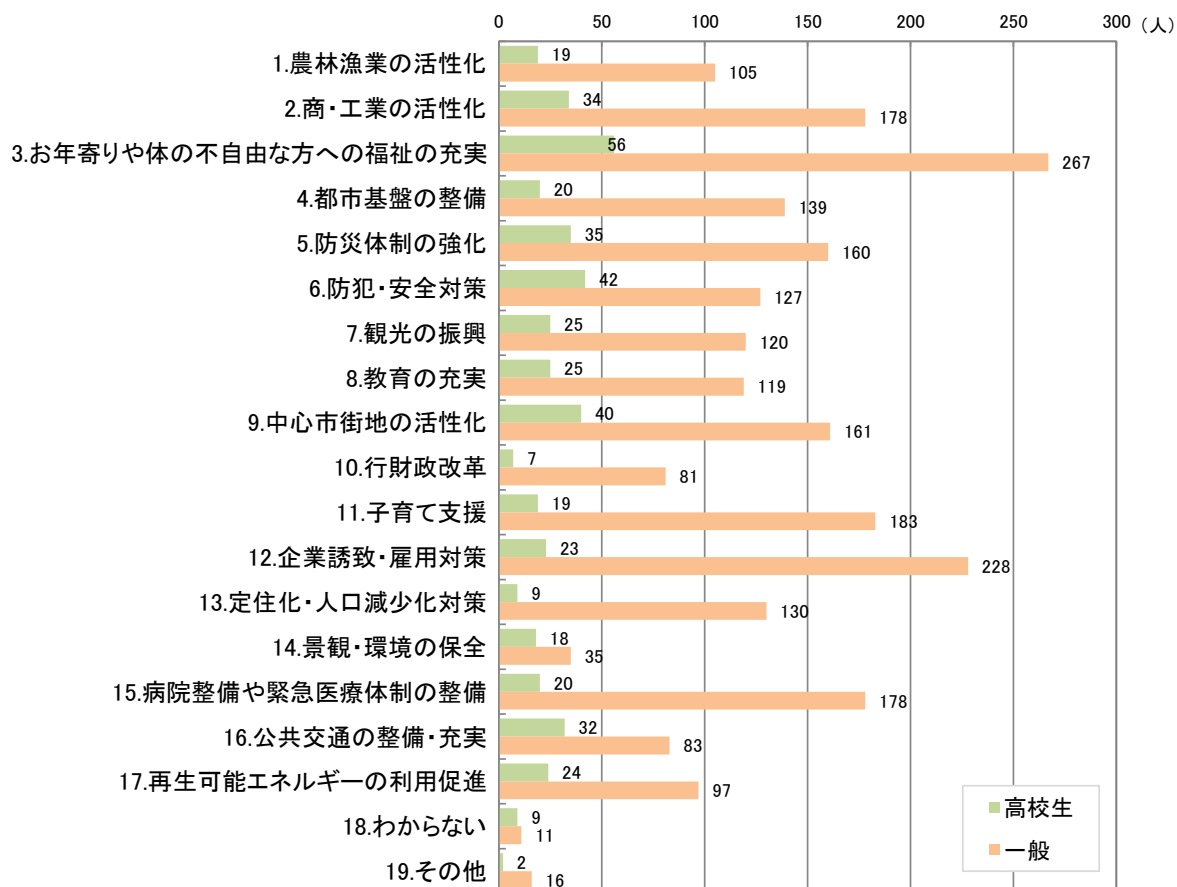


▲今後の下水道整備

⑥まちづくりの優先的取り組み分野

・一般の方からは、福祉の充実が最も多く、次いで企業誘致・雇用対策や子育て支援、商・工業の活性化、病院や緊急医療体制の整備が挙げられている。

・高校生からは、一般の方と同様、福祉の充実が最も多く、次いで防犯・安全対策や中心市街地の活性化、防災体制の強化、商・工業の活性化が挙げられている。



▲まちづくりの優先的取り組み分野



1-3-2 各種団体からの意見

都市計画審議会からの提案も踏まえ、新しい都市計画マスタープランへ若い人の意見を積極的に反映させるため、中津青年会議所や若手農業事業者からも意見を募った。さらに、平成28年4月以降に開催された「市長と話そう ふれあい座談会」において、各種団体等からの意見も参考にしている。

その中での主な意見としては、土地利用、道路整備に関することや中心市街地の活性化、地域振興による活性化、歴史・文化の継承や自然環境に対する保全・活用、広場・公園の整備・充実、災害への対応等に対する意見が多かった。

1-3-3 説明会での意見

平成29年2月に市内5箇所で行った中津市都市計画マスタープランの説明会を行った。

主な意見としては、土地利用、道路整備に関することや街のコンパクト化、地域振興による活性化、広場・公園の整備・充実、災害への対応等に対する意見が多かった。



▲説明会の様子

▼開催日時と場所

日時	場所
平成 29 年 2 月 6 日(月)19:00~20:00	三光公民館 大集会場
平成 29 年 2 月 7 日(火)19:00~20:00	南部公民館 集会室
平成 29 年 2 月 9 日(木)19:00~20:00	鶴居コミュニティセンター 集会室
平成 29 年 2 月 13 日(月)19:00~20:00	如水コミュニティセンター 集会室
平成 29 年 2 月 14 日(火)19:00~20:00	今津コミュニティセンター 集会室

1-4 中津市における都市整備課題

前述の中津市の現況、上位・関連計画の整理、市民の意識調査より、本市の都市整備上の課題を以下に整理する。

(1) 利便性が高く持続可能な都市構造の形成

- 高齢社会に対応した、移動距離が少なく済む利便性の高い都市づくり(過度に「車」に依存せず、公共交通の利用が促進され、歩行者・自転車も安全で快適に移動できる都市づくり)
- 「まちなか」等の空き地・空き家を活用した定住促進と、郊外における大規模住宅開発等の抑制

(2) 地域振興・活性化

- 人口減少と少子高齢化への懸念に対応した地域コミュニティ^{*14}の維持・形成
- 周辺市町との連携を図りながら、就業・就学拠点としてのポテンシャルの維持・向上
- 工業での高い拠点性を活かすとともに、産業振興による雇用の場の創出
- 既存商店街の活性化等、中心市街地における利便性の高い商業地の形成と「まちなか」居住の促進

(3) 基盤整備の充実

- 都市計画区域外との広域的な連携と中心市街地における交通集中の緩和やアクセス性の向上
- 公共交通の維持とネットワークの確保
- 地域の特性に応じた都市施設等の基盤整備・充実

(4) 安全・安心な空間形成

- 安全・快適な移動・活動に向けた都市基盤整備やバリアフリー・ユニバーサルデザイン化
- 災害対策と防災機能の強化による災害に強い都市づくり
- 防犯灯の設置などによる防犯対策の充実

(5) 自然環境の保全と歴史・文化の継承

- 優良農地の保全と適切な農地の開発(転用)
- 地域特有の歴史・景観等の保全(次世代への継承)

*14: 一定の地域に居住し、共通の活動やふれあいにより、信頼関係を築きながら、地域の事柄に取り組む町内会等のこと。